

令和5年度学校経営方針

東久留米市立第六小学校 校長 内田 かほり

☆☆六小の子供たちの強み☆☆

- 明るく素直 ○誰とでも仲良く
- 生活規律が身に付いている。
(あいさつ・時間を守る・靴・傘の整頓など)
- 決められたことを実行できる。

第六小学校の教育目標

- ◎考える子・・・課題意識をもち、自分から学び、考え、伝え合い、学び合う子
- 助け合う子・・・生命や人権を尊重し、みんなと協力する心豊かな子
- 元気な子・・・未来を切り拓き、世界や社会で活躍する心身ともに元気でたくましい子

★六小の子供たちの課題★

- 自分たちの・・・課題
- 自分たちで・・・考える、すすんで動く
- 自分たちの力で・・・解決する、よりよくしていこうとする

【これから子供たちが生きていく社会】

- ・2035年問題 ・Society 5.0
- ・新型コロナウイルス、世界情勢等、予測困難な状況

◎R5年度 第六小学校の目指す教育
『次代に生きる子供を育てる』
～人間味あふれ、自ら考え、自ら学ぶ子供～

～今後の社会において求められる力～

- 何が重要であるかを主体的に判断できること
- 多様な人々と協働することができること
- 新たな問題の発見・解決につなげることができること

目指す子供像 『人間味あふれ、自ら考え、自ら学ぶ子供』

- ・「人間味あふれる」→人間としての幅が広いこと。相手の存在を認める、相手の考えを理解しようとする。
- ・「自ら考える」 →自分で考え、判断、行動、反省、責任をとる、PDCA サイクルを身に付けていること。
- ・「自ら学ぶ」 →事物や自然、人から学ぶ姿勢をもち、直接体験、間接体験を多く経験すること。

◎学校経営の中心は「子供」

学校運営の判断基準＝「はじめに子供ありき」の観点

- ①子供にとってよいか ②教職員にとってよいか ③保護者、地域社会にとってよいか
- ・教育指導の評価は「子供が変容した姿」で勝負する。→具体的な根拠で示していく
- ・百の理論よりも、一つの実践を大事にする。→実践、学んだことの共有
- ・率先垂範。教職員自らがその生き様を子供に示す。

◎個性・能力に応じた教育

- ①教育は、子供理解に始まり、子供理解に終わる。
- ②教育の基盤は、信頼に支えられた人間関係である。
- ③学習指導の基本は、学習者の学習への動機付けである。

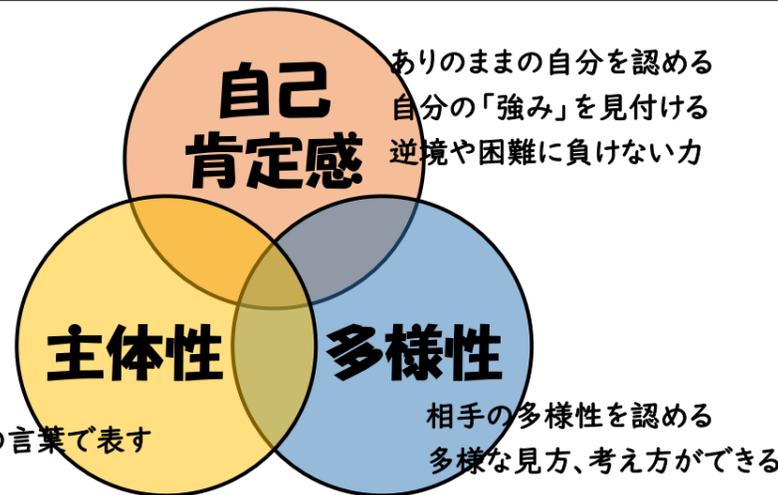
常に自らの指導観を振り返り、
バージョンアップする教職員

☆指導するときの判断基準

- ①生命に関わるときは全員が指導する。【生命尊重】
- ②人権に関わるときは全員が指導する。【人権尊重】
- ③人に迷惑をかけたときは全員が指導する。【社会性の育成】
- ④既習経験がないときは全員が指導する。【未経験】

子供一人に対して、教職員全員が
担任であるという意識を！

子供も大人も「Well-being」の
実現に向けて



～R4 学力調査、学校評価からの課題～

- 自分の考えをもつ・・・自分の考えをもつ【3.3】
- 書く力・・・学力調査の結果
- プレゼン能力・・・すすんで発表する【3.1】
筋道立てて説明する【3.1】

◎「主体的・対話的で深い学び」のできる教職員

◎「好きなこと・もの、できるようになったことを1つでも増やす」仕掛けを。

◎感性を磨く＝広い視野で柔軟な支援・指導へ。

- ①個別最適化(指導の個別化・学習の個性化)と協働的な学び→児童の実態分析と各教科等の特性を生かす。 *考える、調べる、書く、発表・説明する、関わる必然性のある仕掛け
- ②校内研究の充実→研究主題「『主体的・対話的で深い学び』の実現に向けた授業づくり」 ③学習規律、「六小6つの『あ』」の共通認識、共通指導
- ④キャリア・アントレプレナーシップ教育⑤デジタル・シティズンシップ教育→外部講師の活用＝「餅は餅屋」に任せる ⑥教育のユニバーサルデザイン→
- ⑦インクルーシブ教育(ダイバーシティ)→6年間を通した、特別支援教育の視点にたった児童の育成、ことばきこえ教室、すずらん教室教員、担任による理解啓発授業の実施
- ⑧朝学習 週3日15分間:国語(2回)、算数(1回) 曜日設定は各学年で。→授業時数カウント、週案への学習内容の記載、学期末ごとに数値での結果提出
- ⑨タブレット端末の活用 ⑩「六小自主学习の手引き」の活用 ⑪保護者・地域との連携(CSの推進[実践、実証])
- ⑫自己申告面談期間中の相互授業参観(年3回悉皆)→日々、教室を覗かせていただきます。 ⑬OJTの推進、OFF-JTによる授業力、指導力の向上 ⑭R-DCAPの励行とワークライフバランスの推進

